

2006年度
関西学院大学ロースクール

一般入試（法学未修者）
特 別 入 試

論 文 1 問 題

【日本語問題・英語問題】

- 日本語問題または英語問題のいずれか1題を選択し、
所定の解答用紙に解答すること
- 開始の指示があるまで内容を見てはいけません

【論文1・日本語問題】

あるロースクールの入学試験委員会で、次のような議論が行われた。

社会常識的知識の豊かさ、法律的知識の豊富さ、論理的な推論能力の高さ、意思疎通の能力の高さ（文章力及び会話力）、これらの点において優れた学生を集めようとして試験は行われるべきである、というのが、同委員会でのこれまでの議論で、この線に沿って具体的な入試方法が決められてきた。

ところが、最後の決定段階になって、K委員から、もう一つの決定的要素を判定すべきであるという意見が出された。

すなわち、受験生の倫理性を測るべきである、というのである。K委員によれば、「もし、本学のロースクールが優れた法曹を育てようとするのであれば、単に技術的知識とその使用において優れた能力を示すのみならず高い倫理性をもって、法という道具を社会的に貢献できるように使うべきであるし、そのような力のある学生を集めるべきである。法律は非常に強力な道具なのであって、もしそれを悪用すれば大きな弊害を生むだろう。悪事を果たしながら法の裁きを受けない方法を伝授することができる『優れた』法曹がいたとして、それは本ロースクールが輩出すべき法曹であろうか。そうではあるまい。となれば、優れた倫理性を持った学生を選抜できるような入試制度にすべきであって、この点が欠けている入試制度には根本的な欠陥がある。」

この意見が出された後、委員会では活発な議論がなされた。主要な論点となったのは、ある委員のまとめによれば、第一に、一般に倫理的なことは大切であろうけれど、そういった内容は入ってから学ぶことができるのではないか、第二に、倫理性を測ろうとすることは思想的選別につながるのではないか、第三に、どのように倫理性を測ることができるのか、それは現実的か、という点であった（もちろん、このような論点の整理に全委員が賛成するかは定かではないが）。その他の論点を含め、熱心な議論がなされ、海外事例だとか、哲学的な背景、司法制度改革審議会の議論なども引証されながら激しい討論となった。かなり具体的な制度提案なども出されたが、基本的な点での合意も十分にとることができているわけでもなく、結局全員の納得するような合意を得ることができなかった。

この議論を4時間ほど繰り広げたあげく、「K委員はこういう基本的な問題を最後の決定段階にいうべきではなかった、手続き的に問題があるのではないか」という意見が出てきた。そして、委員長から、「今年度は無理なので、今回は従来検討されてきた線で実施するが、来年度からはK委員の主張を踏まえ、受験生の倫理性に関する判定の導入の可否、また導入の場合にはその具体的方法について十分検討した上で入試を実施したい」という提案がなされた。K委員は、「では今年の学生は倫理的に低くてもいいのか」「本ロースクールの理念は何か」「今からでも本気になれば間に合う」などと反論したが、4時間の議論に疲れた委員たちは、結局議論の先送りを選択することになった。この合意の際には、実は大学の委員会の委員が多くの場合1年で交代になることもあって、委員たちは先送りすることで来年の委員に任せようという考えもあったからであろう。

しかし、「年度を越えてしまうと問題関心が薄れ、形式的な議論をしているうちに時間切れになってまた先送りになってしまう」というK委員や彼を支持する何人かの委員の強い意見もあって、今年度の委員会においてある程度の方向性を出しておくことが必要であるということになった。その結果、委員に次回の委員会までに委員長から次のような宿題が課せられることになった。

「倫理性をロースクールの入学者選抜において測るべきであるか、もし測るべきであるとするならばその根拠及びどのような形で測るべきであるかについて、また、もし測るべきでないとするならばその根拠及びK委員の問題提起にどのように応えるのかについて、意見を提出してください。その際、委員会で議論された三つの論点についても何らかの形で言及してください。なお、コスト面から見ても現実性のある意見を前提にしてください。」

<設問>

あなたが委員であるとして、宿題となった意見書を書きなさい。

なお、意見書の宛先は「入学試験委員会委員長」とし、提出者は「委員 ○○○○」とすること。